

演 題： 豚の腹腔内腫瘍

機 関 名： 千葉県東総食肉衛生検査所

氏 名： 吉野 学

動 物 名： 豚 品種： LW 性別： 雌 年齢： 2才

病 歴： 特になし。

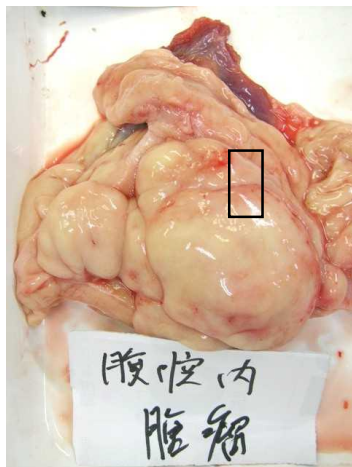
生体所見： 一般畜として搬入され、特に異常を認めなかった。

内臓所見： 腹腔内漿膜面の広範囲にわたって、直径 3~10cm の乳白色の腫瘍を多数認め、黄色透明の腹水が多量に貯留していた。膀胱の漿膜面にはうずら卵大の腫瘍が密発し、粘膜面には出血を認め、脾臓の漿膜面には線維素の付着や直径 1cm の腫瘍が散在していた。それらの腫瘍の断面は乳白色髓様で、各主要臓器実質や筋肉には認めなかった。各躯幹リンパ節には出血は認めるが、腫大は認めなかった。また、骨盤腔内に直腸を巻き込んで膿瘍を認めた。

組織所見： 腫瘍部のスタンプスマア標本において、大小不同、核は淡明で核小体を複数持つ異型リンパ球を認め、一部では核分裂像も認めた。腫瘍部の組織切片では、中～大型のリンパ球様腫瘍細胞がびまん性に増殖し、スターリースカイ像も認めた。核は円形～類円形で、クロマチンに乏しく、核小体を複数持つものや、分裂像も認めた。また、同様の腫瘍細胞を他臓器にも認め、膀胱には腫瘍細胞が高度に浸潤増殖、固有構造は消失し、脾臓の漿膜面には小腫瘍塊を認め、また卵巣には腫瘍細胞の浸潤を認めた。免疫染色では腫瘍細胞は CD3 抗体 (F7. 2. 38:DAKO) に陰性、CD79 α 抗体 (HM57:ニチレイ) に陽性を示した。

固定方法： 20%中性緩衝ホルマリン

切り出し部位：



行政処分： 全部廃棄

組織診断名： B 細胞性リンパ腫

疾病診断名： リンパ腫